

□議員名：前田浩司

1 糸根公園整備と文化財保護体制について

論点	文化財保護環境の現状と課題について、どのように把握しているか。
回答	文化財審議会でも重要と認められた指定文化財については、所有者とともに市も状況を把握し、保存管理を行っている。市が所蔵している未指定の文化財や民俗資料については、歴史民俗資料館や厚狭図書館で管理している。

論点	行政には、文化財行政を守り生かす取組を政策として進める責任があるが、「文化財保存活用地域計画」の策定状況はどうか。
回答	「文化財保存活用地域計画」は、住民・民間団体などとともに文化財の保存と活用を行い、地域社会全体で文化財を継承していくためのものと理解はしているが、本市においてはまだ作成していない。

論点	現在の未指定文化財の点数、目録及び台帳の整理状況についてはどうか。
回答	歴史民俗資料館で管理している収蔵資料については約1万3000点あり、台帳管理や目録を作成し適切に管理している。厚狭図書館に収蔵しているものについては、未整理の資料があり今後の課題と捉えている。

論点	文化財を守る専門の職員が、今どれくらい配置されているのか、実際の状況はどうか。
回答	社会教育課の文化財係は、主担当1名と兼務職員1名が担当している。歴史民俗資料館には学芸員資格者が2名いるが、市の文化財を統括する文化財係には、学芸員資格を持つ専門職員は配置されていない。

論点	文化財の費用について、国の補助や企業協賛、ふるさと納税などで資金を確保する必要があると思うが、今後の計画についてどうか。
回答	文化財の改修は補助金を活用することになると思うが、新たな財源

	の確保についても関係部署と話し合いを始めている。今後も調査・検討を進め、具体的な協議を開始したいと考えている。
--	---

論点	文化財を市民にもっと認知してもらうため、どのような施策に取り組んでいるのか。
回答	文化財への理解を深めるため、出前講座や歴史民俗資料館での企画展を開催している。また、「ふるさと文化遺産」を発行したり、地域交流センターで歴史講座・探訪などを実施したり、興味・関心の向上と保護意識の醸成に努めている。

論点	小・中学校で、文化財を見学したり授業で使ったりしながら、成長に合わせて学びを深めていくことが大切だと思うがどうか。
回答	令和7年度に歴史民俗資料館が学校と連携した件数は、小学校で16件（出前授業8件、見学8件）、中学校で5件（出前授業4件、見学1件）。さらに、高校では出前授業の依頼や見学が3件、大学では1件行っている。また、社会教育課が中学校で1件行っている。

論点	小学校の社会の授業で使う副読本「はっけん！山陽小野田」の内容を地域の人に知ってもらうためのPRについてどうか。
回答	紙媒体では難しかった動画や360度カメラによる写真等の視覚的なコンテンツなど、デジタルの強みを生かした機能を新たに加え、楽しく学べるように工夫している。

論点	糸根の公園にも歴史的・文化的価値の高い文化財が点在している。糸根の松原を活用した観光の取組は今後あるのか。
回答	埴生地区では、糸根の松原や和泉式部の墓などの文化財を巡るサイクリングコースを検討している。地域の歴史や自然を楽しめる観光ルートとして、周遊観光の充実を図っていきたいと考えている。

論点	デジタルを活用して地域の歴史資源について市民への情報発信はどのように考え、歴史文化を観光活用にどのように展開していくのか。
----	---

回答	デジタル技術を活用した情報発信は、多くの市民に情報を届ける有効な手段であると考え、市や教育委員会では、公式インスタグラムやホームページなどを通じて、イベント情報などを掲載し発信している。
----	---

論点	デジタル技術を使って次世代に継承するため、原本保存の負担を軽減するデジタルアーカイブの整備についてはどうか。
回答	地域固有の歴史資料については、デジタル化や劣化防止が重要であることは認識している。しかし、現時点では資料の全体像（量・種類・状態）が把握できていないため、まずは収蔵資料の内容を精査し、整理することが最優先課題である。

論点	糸根公園の整備にあたって、和泉式部にゆかりのある自治体と連携し、文化財を関係人口創出の資源として活用する考えはどうか。
回答	関係人口の創出を他市と連携して進めるにあたっては、地域住民との協働を重視し、住民の意向や地域文化への配慮が不可欠であり、計画的に取組を進めていく必要がある。地域資源の活用については、来年度の観光振興プランの改定に併せて整理・整備していきたい。